

全道10月中の交通事故分析について (過去5か年死亡・重傷事故)

令和6年9月11日
警察本部交通企画課

【概況】

- 発生件数全体の事故類型では、発生件数で見ると、人対車両が最も多く、次いで自転車対車が多い。
死亡事故は、人対車両が最も多く、次いで車両単独が多い。
- 四輪乗車中死者のうち、3割以上がシートベルト非着用で、非着用のうち約9割がシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。
- 人対車両は、時間帯別では発生件数、死亡事故件数ともに16時から18時が最も多い。
地形別では市街地の交差点及び市街地の直線が多く、9割以上を占める。
- 人対車両の第1当事者(車両)の違反別では、歩行者妨害が最も多く、次いで前方不注意が多い。
死亡事故は前方不注意が突出して多い。
年齢層別死者数では、65歳以上が最も多く、全体の7割を占めている。
道路横断中の死者のうち、歩行者側の7割以上に信号無視などの法令違反あり。
- 正面衝突及び車両単独は、発生件数で見ると、時間帯別では12時から14時及び14時から16時が最も多く、死亡事故は10時から12時、12時から14時、14時から16時がそれぞれ最も多い。
地形別では死亡事故、重傷事故ともに非市街地カーブが最も多い。
- 正面衝突及び車両単独の第1当事者の年齢層別では、発生件数で見ると、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。
死亡事故でみても、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。
第1当事者(車両)の違反別では、前方不注意が最も多く、そのうち居眠運転が3割以上を占める。
- 自転車対車は、時間帯別では16時から18時が最も多く、死亡事故は全て14時から16時に発生している。
地形別では市街地の交差点が突出して多い。
事故類型別では出会い頭が最も多く、出会い頭のうち、自転車側の約5割に信号無視や一時不停止などの法令違反あり。
年齢層別死傷者数では、65歳以上の高齢者が突出して多い。

注1 本資料は、令和5年12月末日までに入手した10月中発生 of 事故データにより作成したものである。

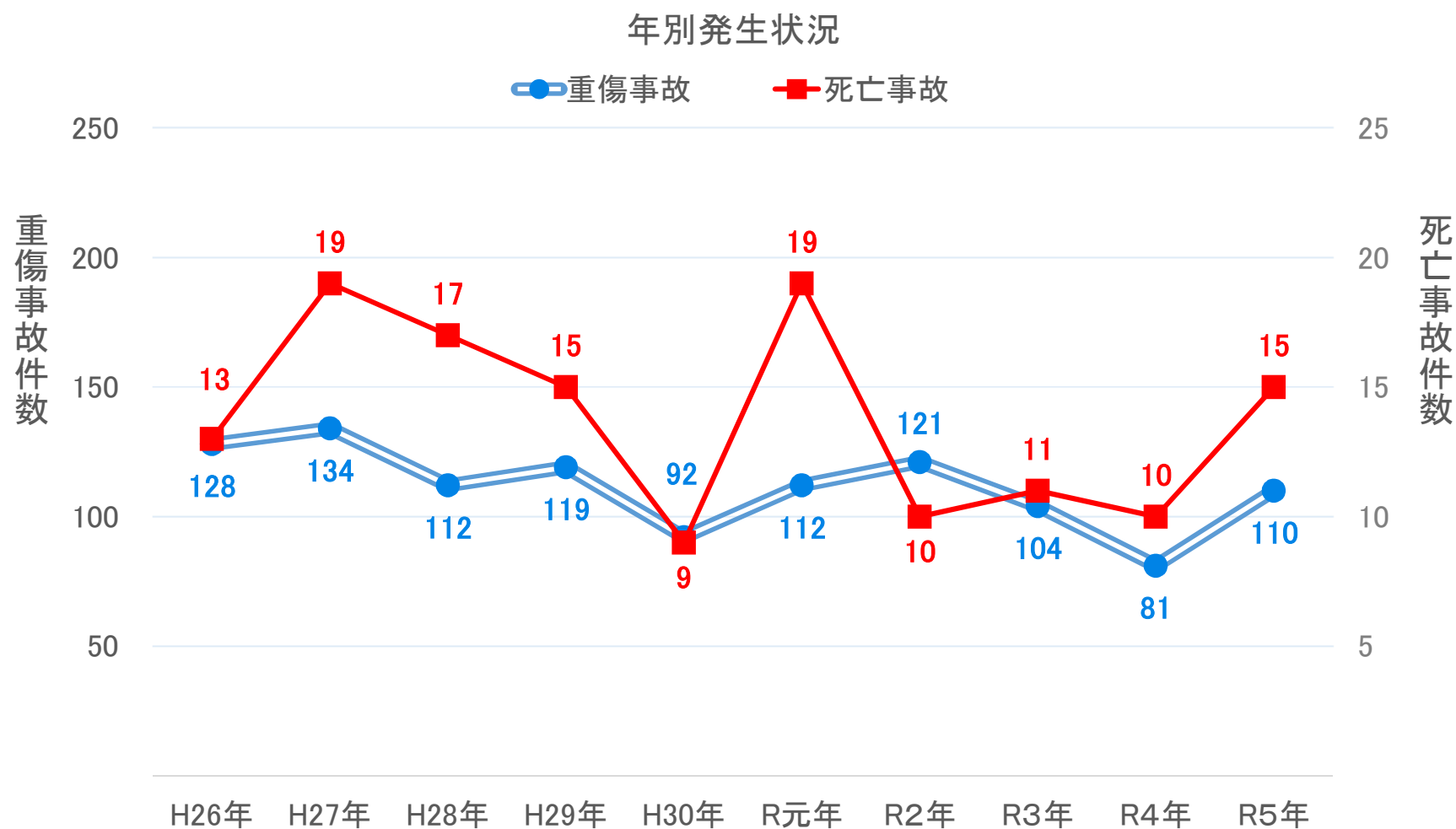
注2 「重傷」とは、1か月(30日)以上の治療を要する負傷をいう。

注3 「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等(列車を含む。)の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者、又は過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいい、本資料中の「1当」とは、第1当事者を省略した表記である。

1-1 年別死亡・重傷事故発生状況

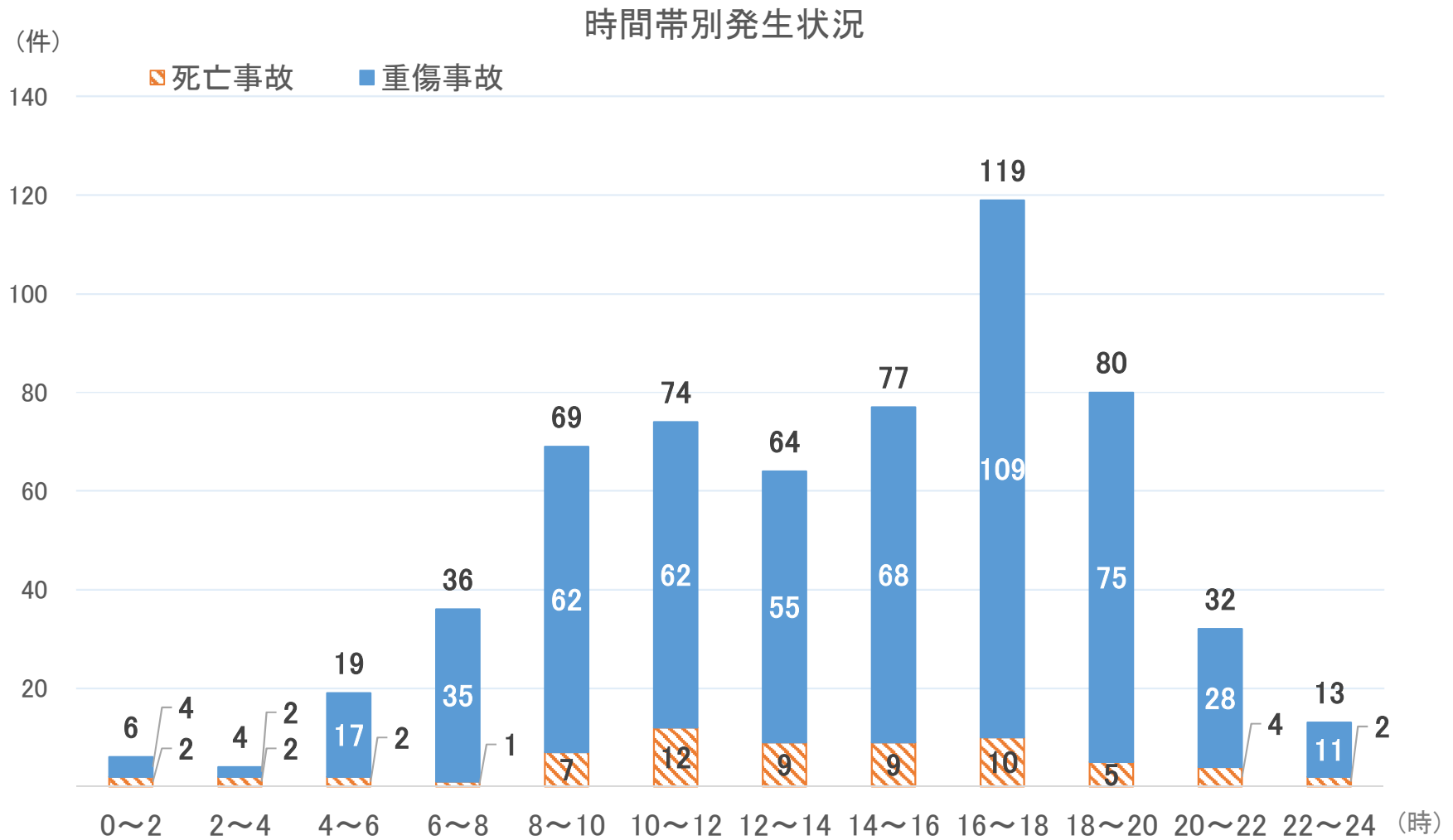
死亡事故件数、重傷事故件数共に、増減を繰り返しながらも減少傾向で推移している。

令和5年については死亡事故、重傷事故ともに前年と比較して大きく増加した。



1-2 時間帯別死亡・重傷事故発生状況

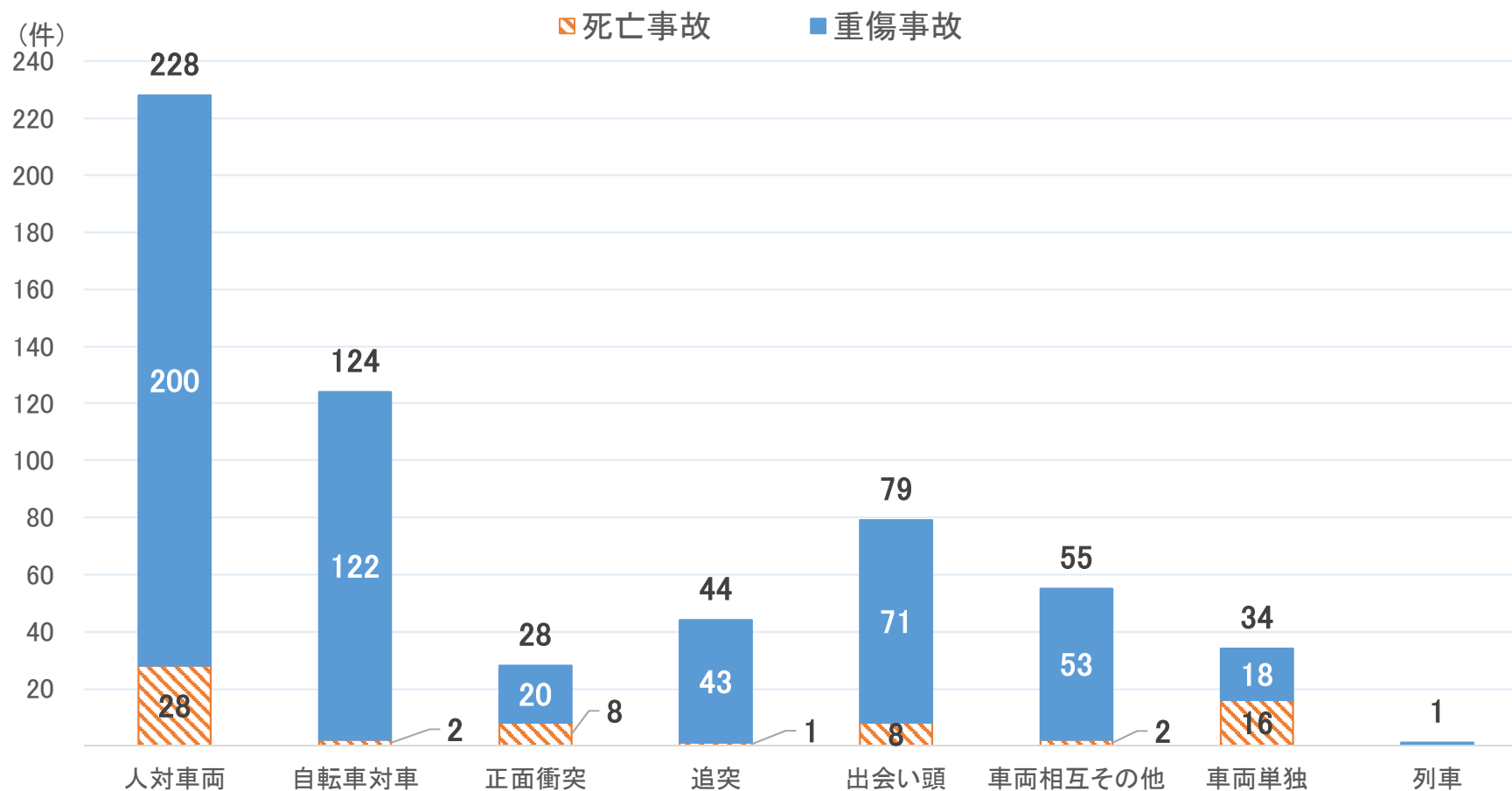
発生件数全体で見ると、16～18時が突出して多く、次いで18～20時が多い。
死亡事故は、10～12時が最も多く、次いで16～18時が多い。



1-3 事故類型別死亡・重傷事故発生状況

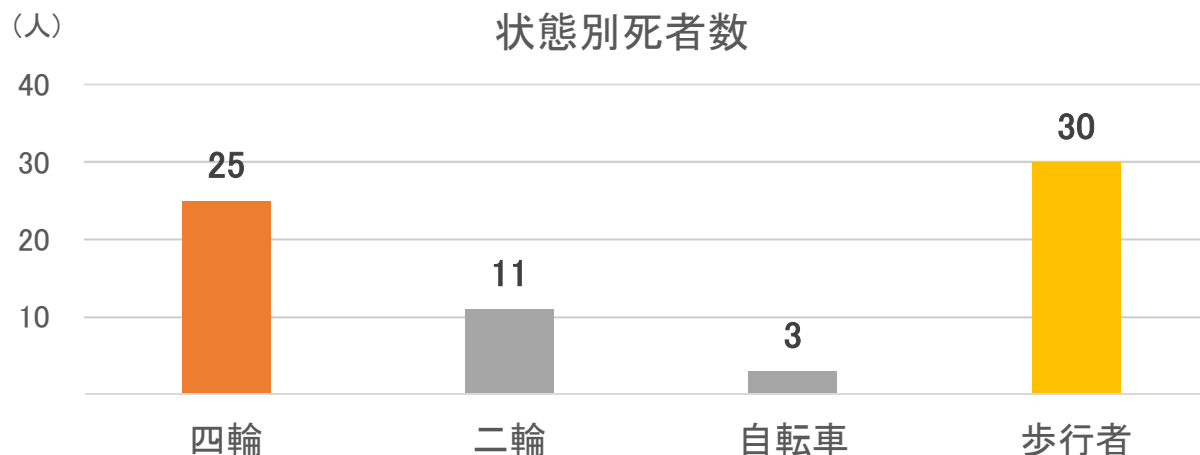
発生件数全体では、人対車両が突出して多く、次いで自転車対車が多い。
死亡事故については、人対車両が最も多く、次いで車両単独が多い

事故類型別発生状況

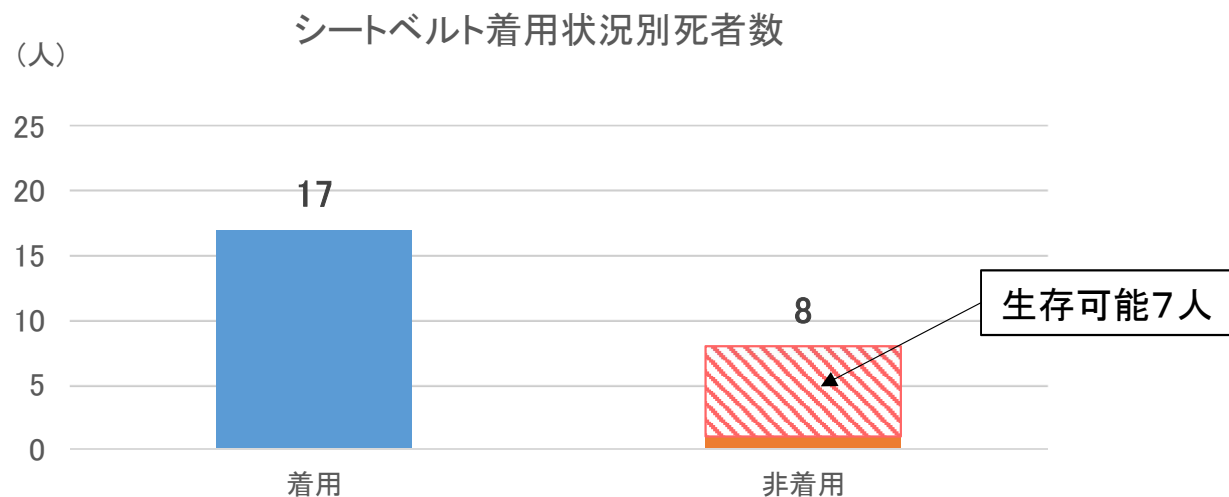


1-4 状態別死者数、シートベルト着用関係

状態別死者数は、歩行者が最も多く、次いで四輪乗車中が多い。



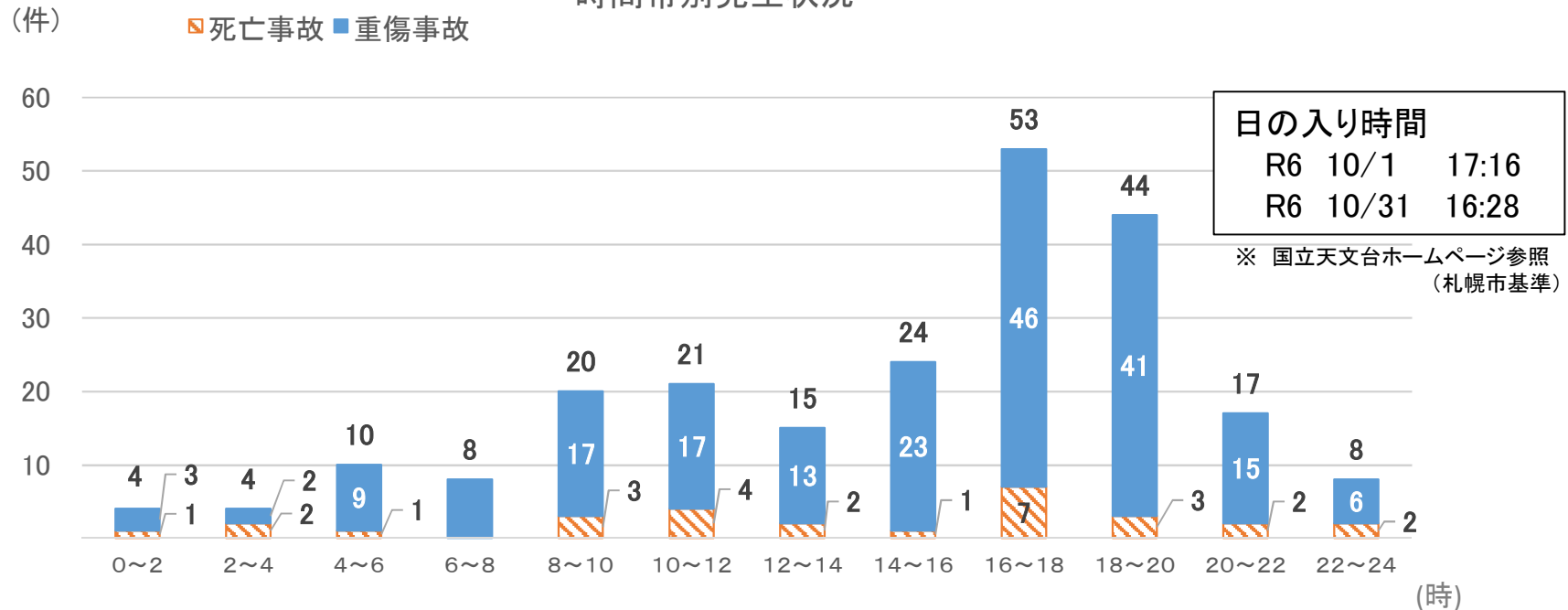
シートベルト着用対象者(四輪)の死者25人中、シートベルト非着用者は8人(32.0%)であり、このうち7人(87.5%)がシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。



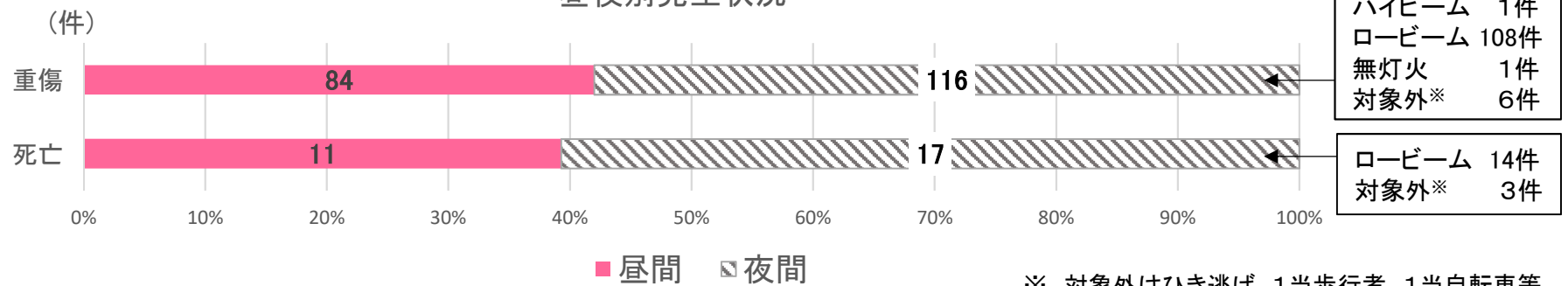
2-1 人対車両における時間帯別発生状況

発生件数全体で見ると日の入り時間である16～18時が最も多い。
死亡事故件数で見ると16～18時が最も多く、次いで10～12時が多い。

時間帯別発生状況

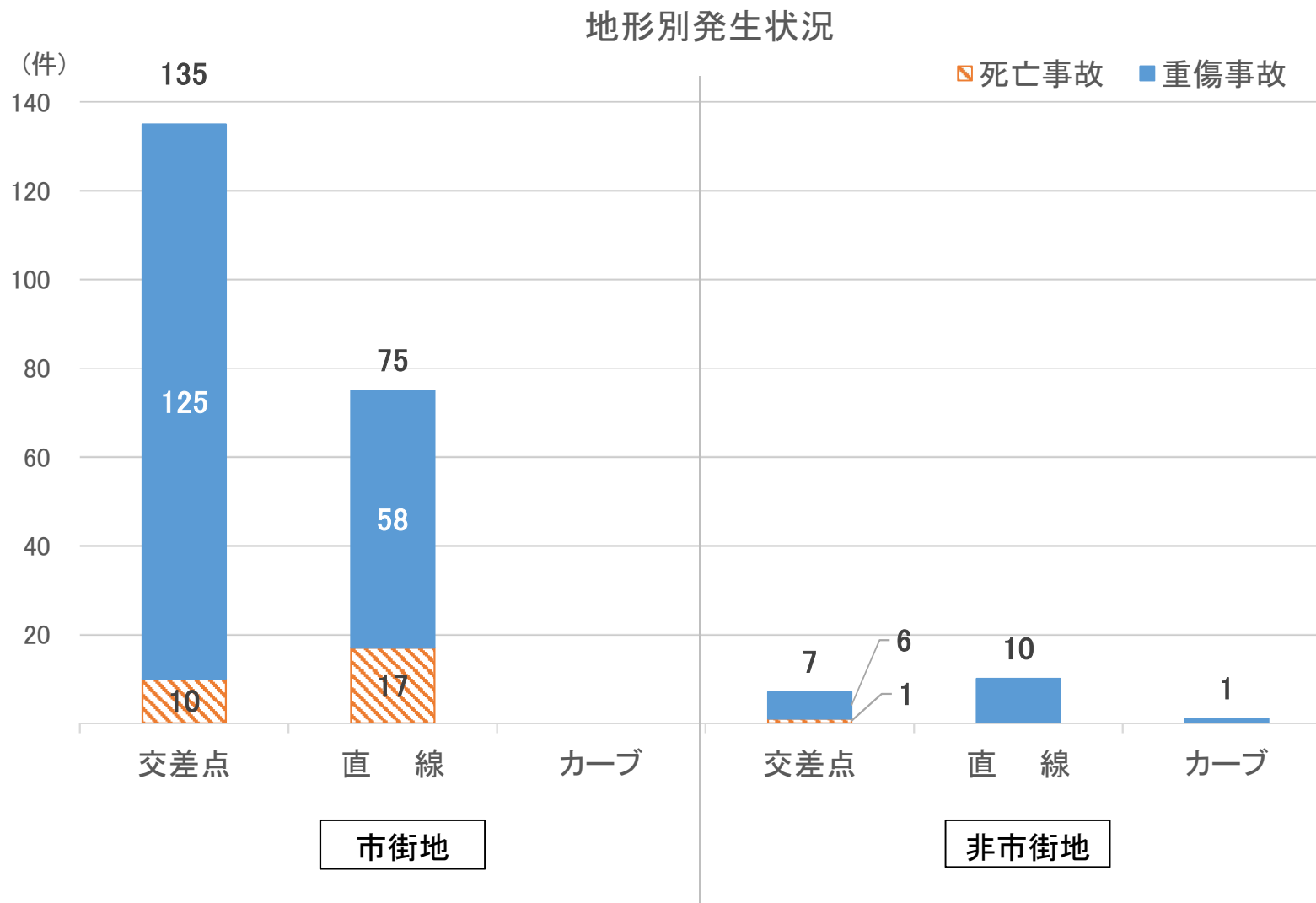


昼夜別発生状況



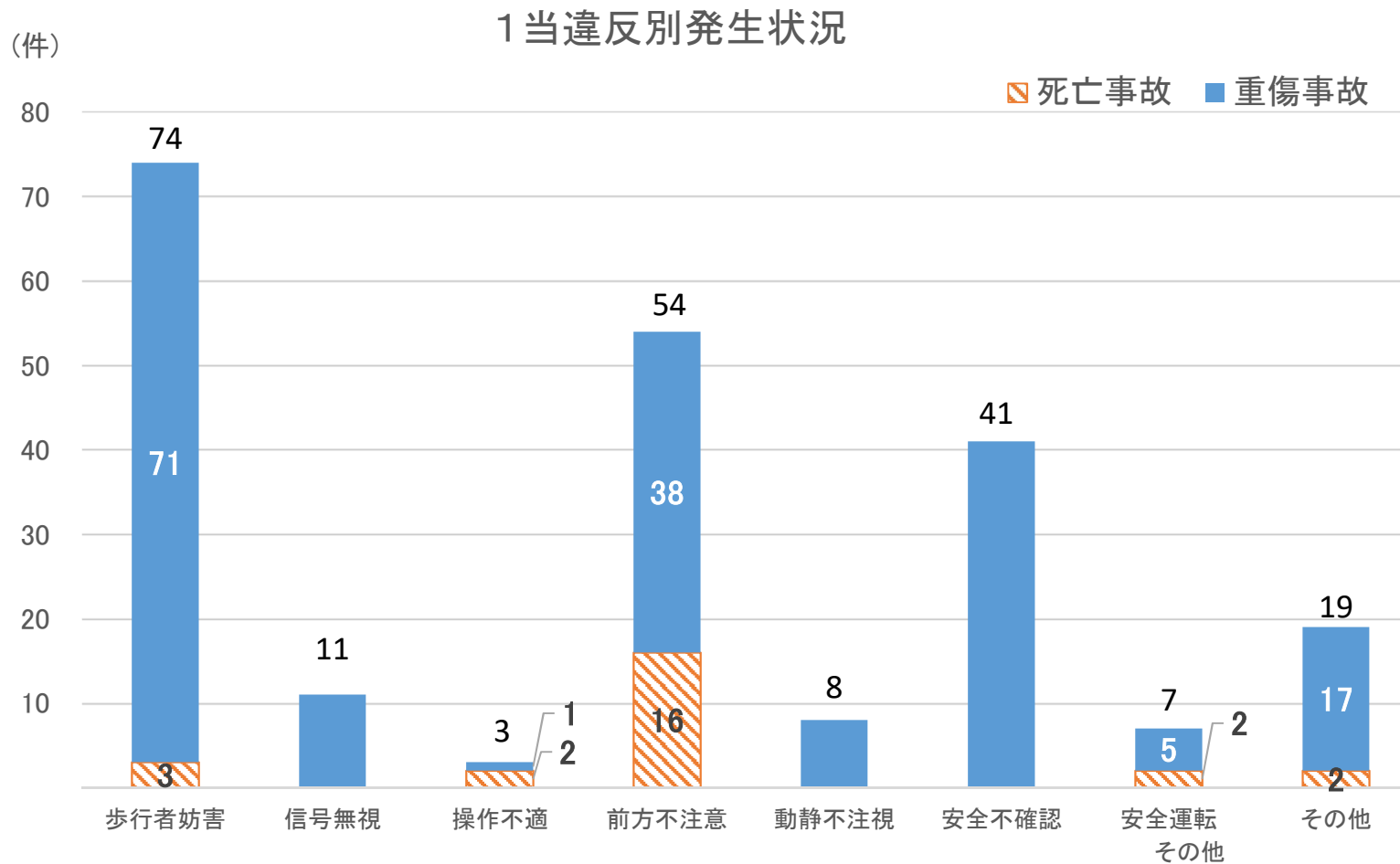
2-2 人对車両における地形別発生状況

市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。



2-3 人対車両における1当の違反別発生状況

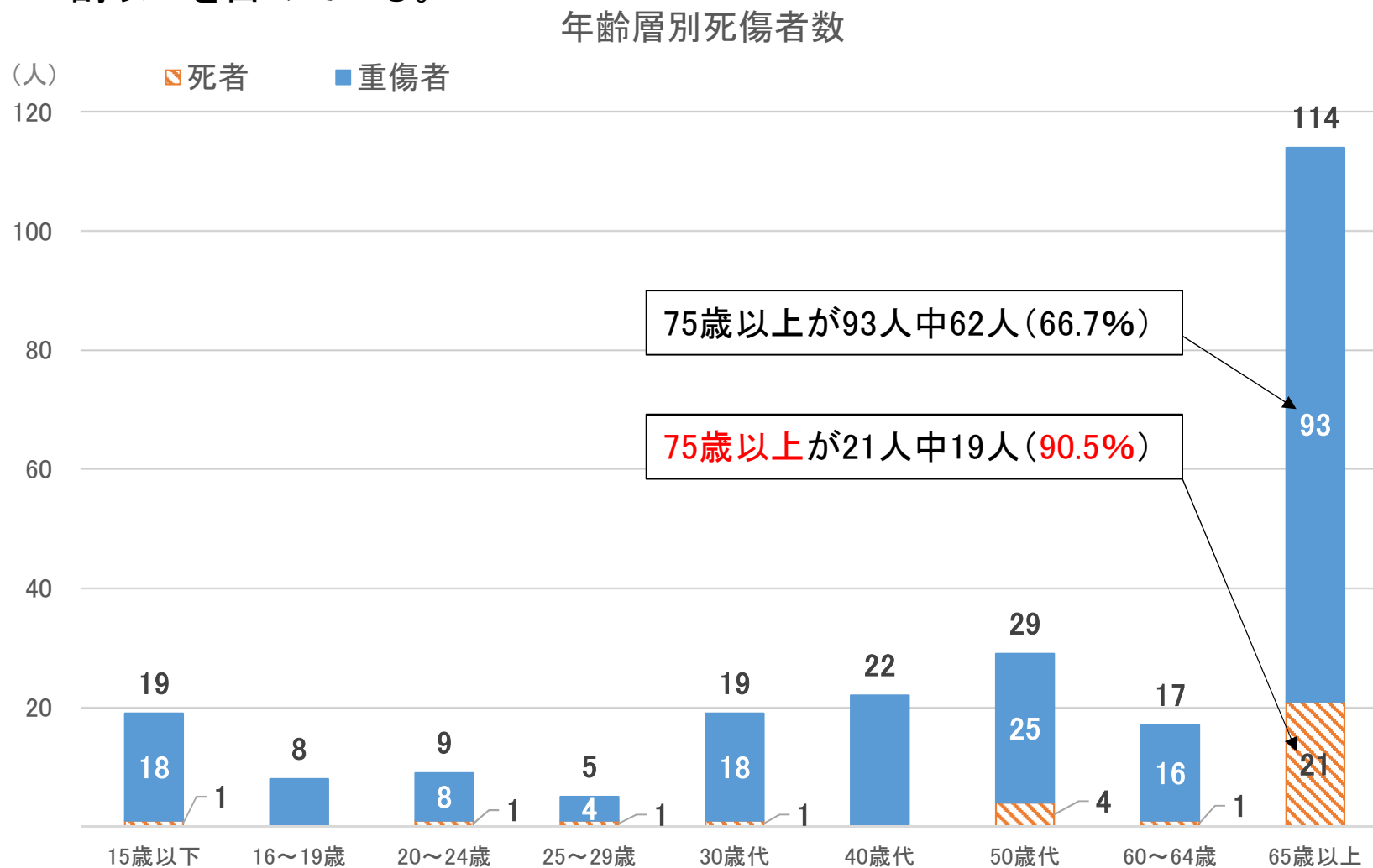
発生件数で見ると、歩行者妨害が最も多く、次いで前方不注意が多い。
死亡事故は、前方不注意が突出して多い。



※ 1当が歩行者、自転車及びひき逃げの場合を除く

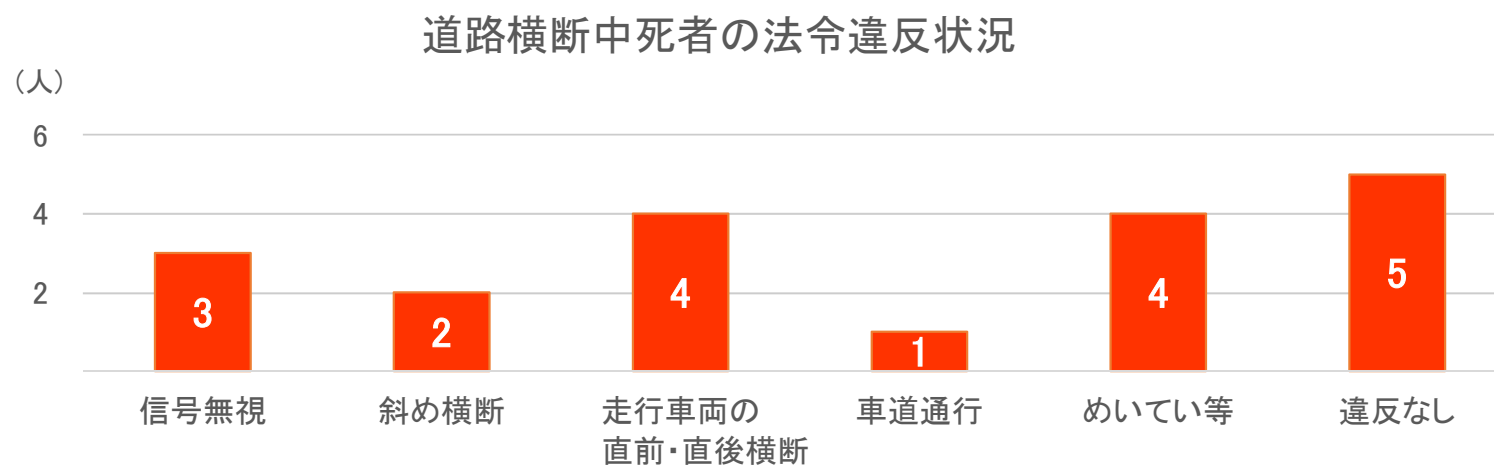
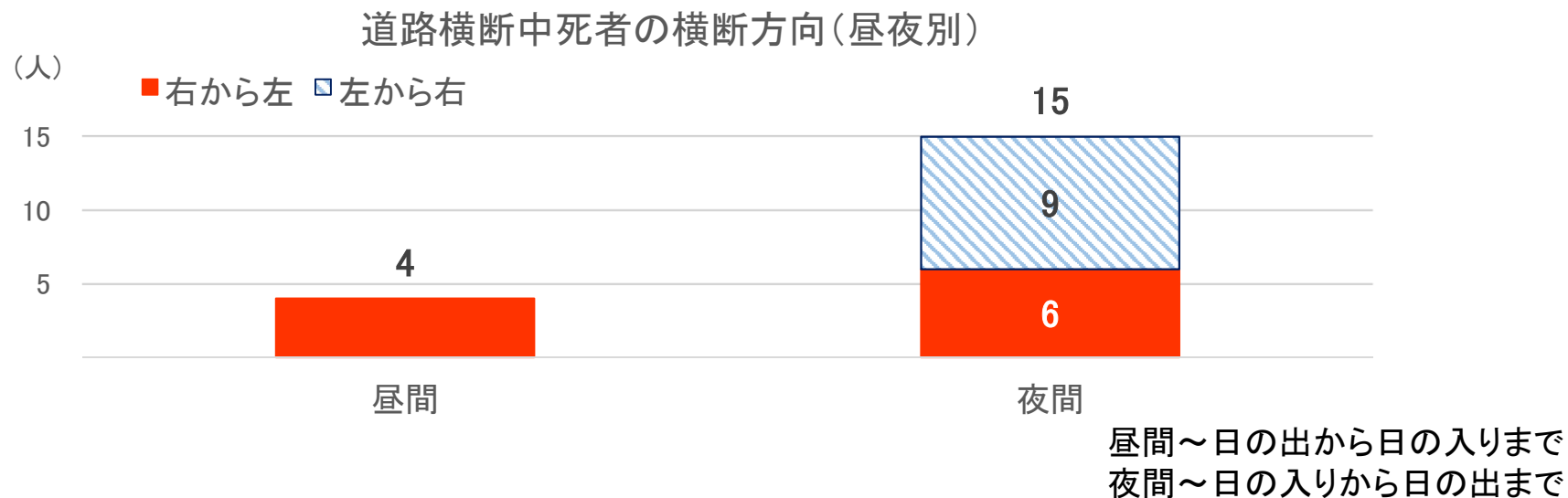
2-4 人対車両における年齢層別死傷者数

死者、重傷者ともに65歳以上が最も多く、死者全体の7割、重傷者全体の4割以上を占めている。



2-5 人対車両における歩行者の横断方向別死者数・法令違反状況

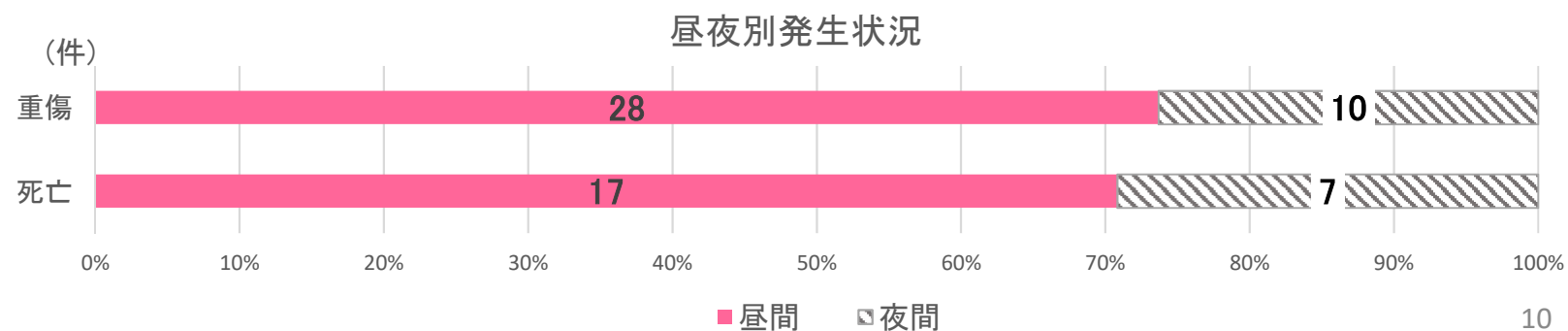
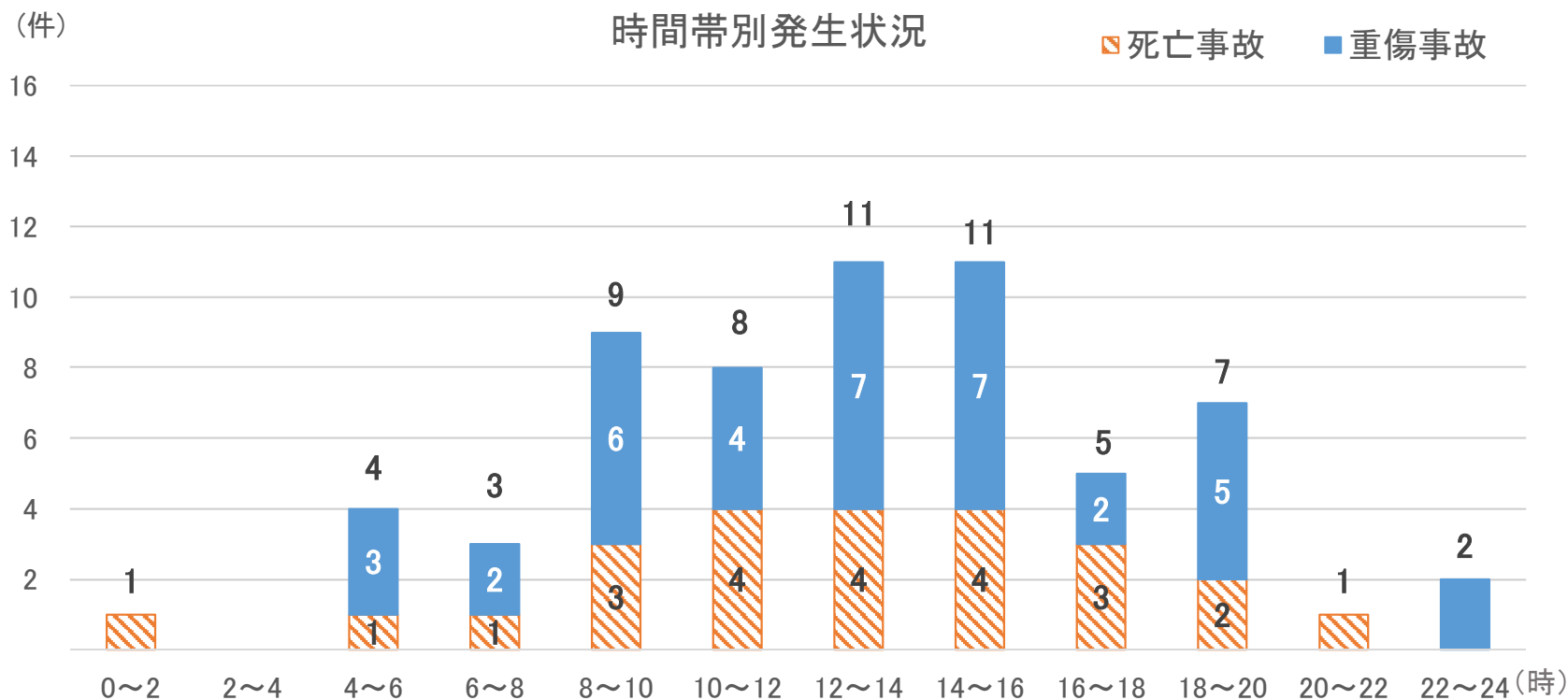
道路横断中の死者19人のうち、昼間が4人、夜間が15人となっており、左から右横断は9人となっている。



道路横断中の死者19人のうち、信号無視などの「違反あり」が14人(73.7%)となっている。

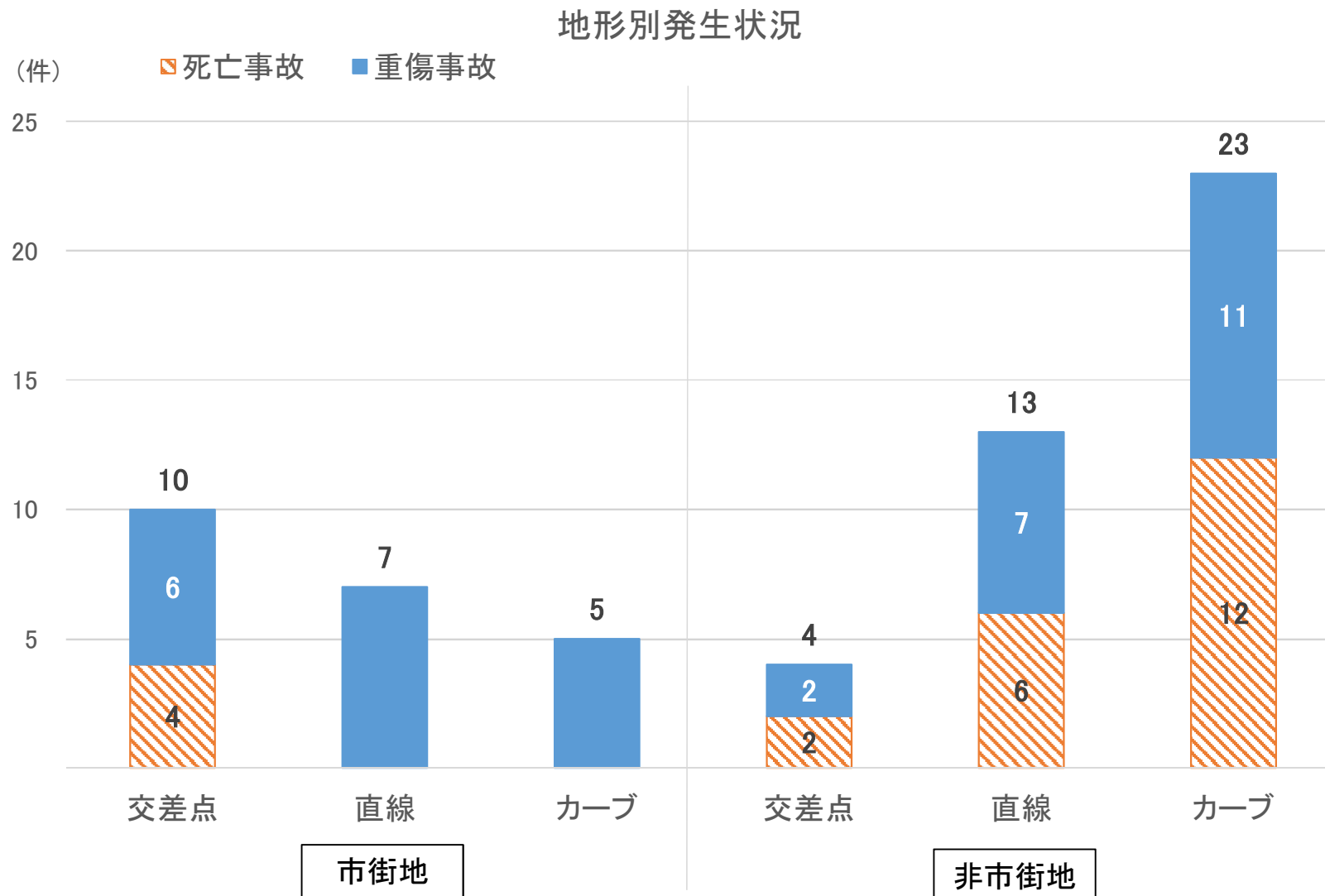
3-1 正面衝突・車両単独における時間帯別発生状況

発生件数で見ると、12～14時及び14～16時が最も多い。
死亡事故は、10～12時、12～14時、14～16時が最も多い。



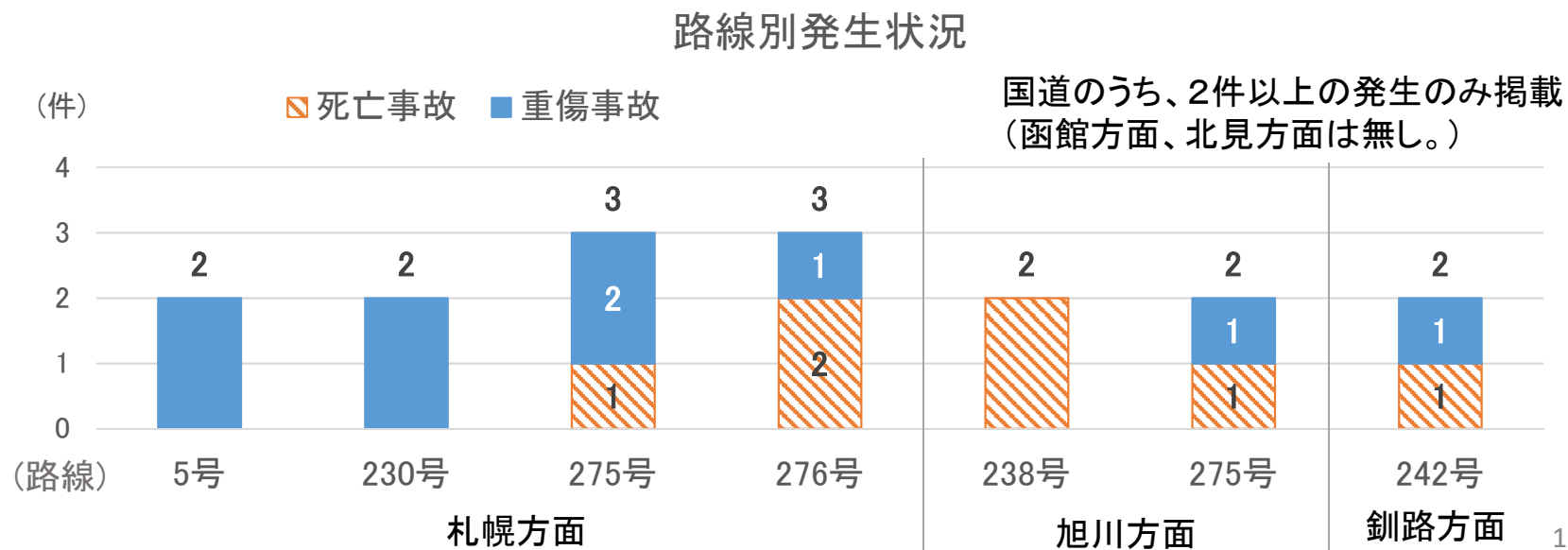
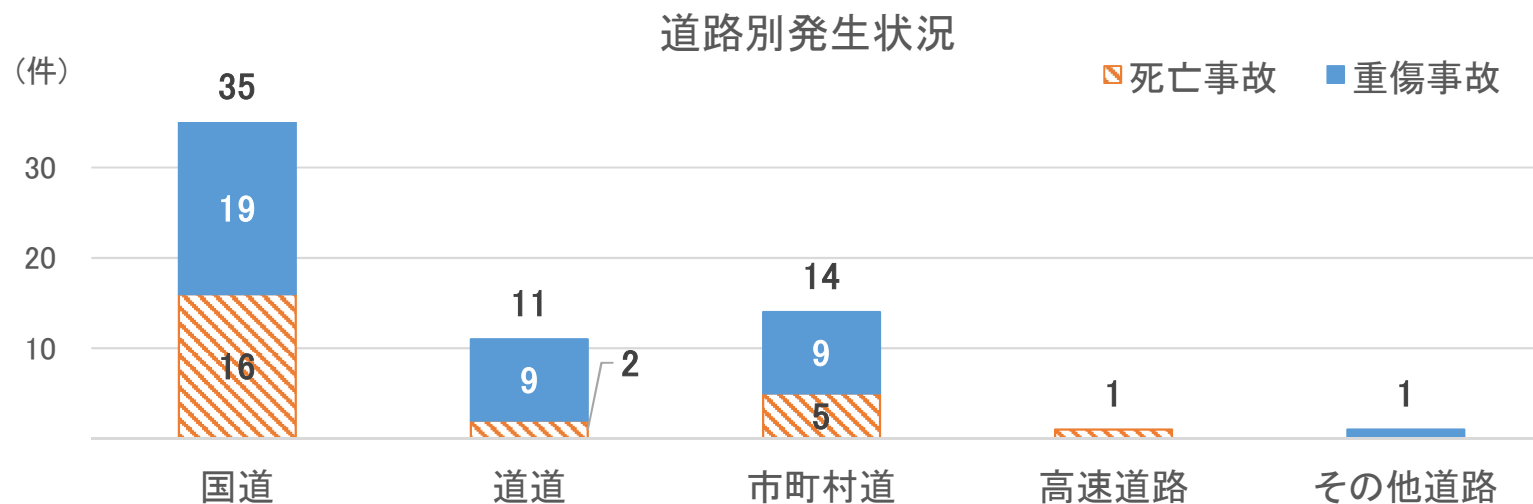
3-2 正面衝突・車両単独における地形別発生状況

発生件数全体で見ると、非市街地カーブが最も多く、次いで非市街地直線が多い。
死亡事故で見ても、非市街地カーブが最も多く、次いで非市街地直線が多い。



3-3 正面衝突・車両単独における道路別発生状況

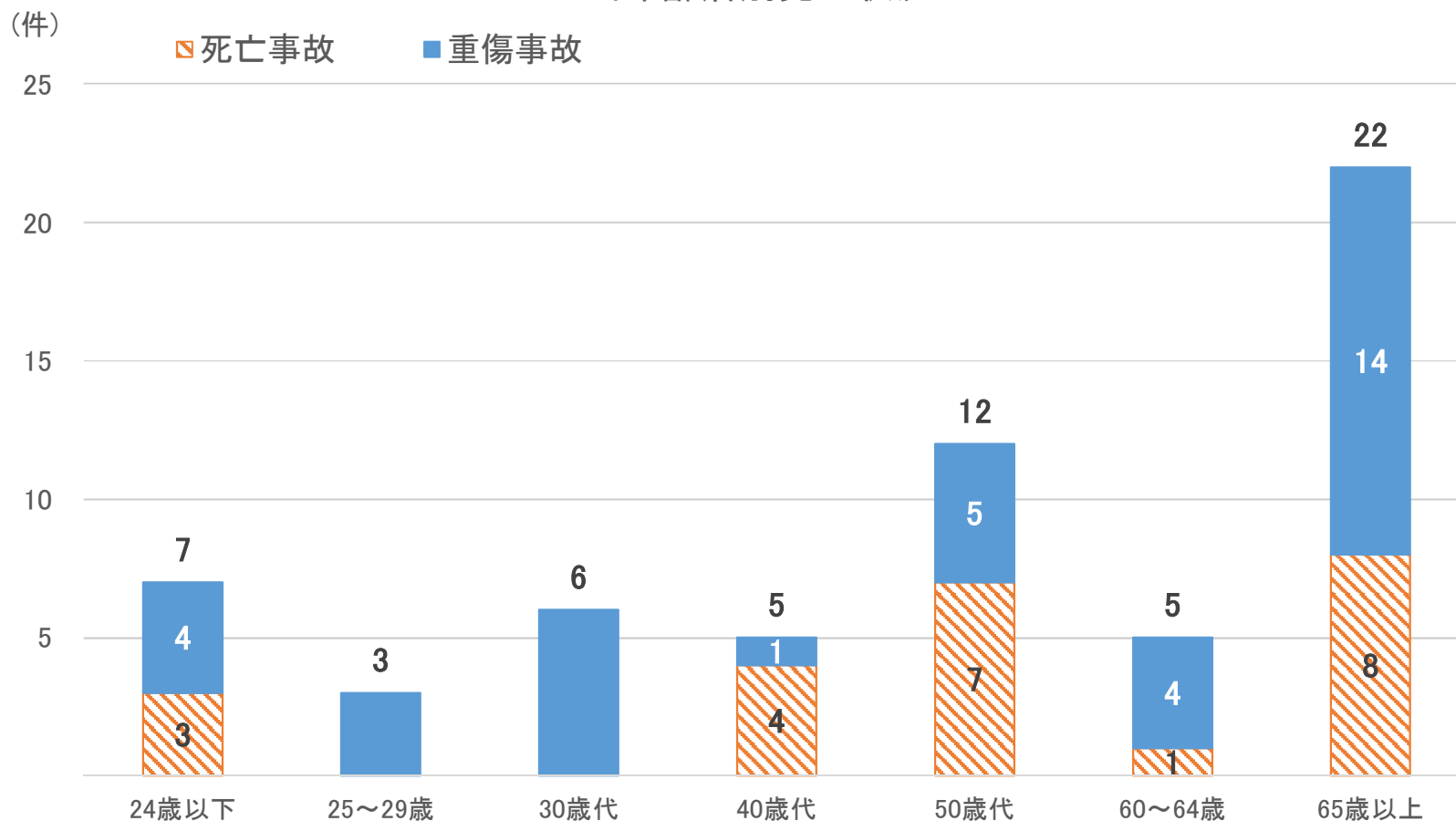
死亡事故、重傷事故ともに国道での発生が最も多い。



3-4 正面衝突・車両単独における1当の年齢層別発生状況

発生件数で見ると、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。
死亡事故で見ても、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。

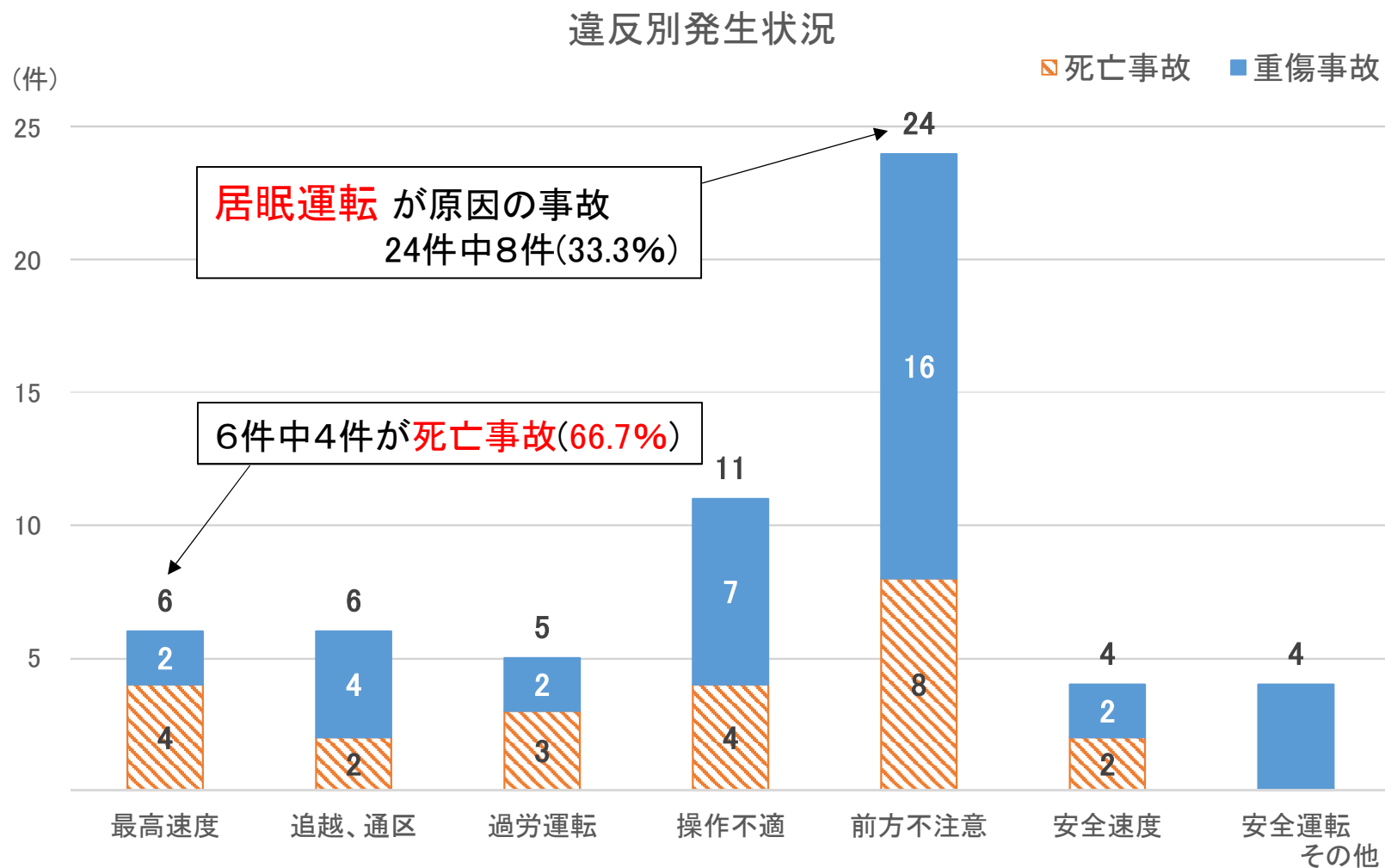
1当年齢層別発生状況



※ 1当が自転車の場合を除く

3-5 正面衝突・車両単独における1当の違反別発生状況

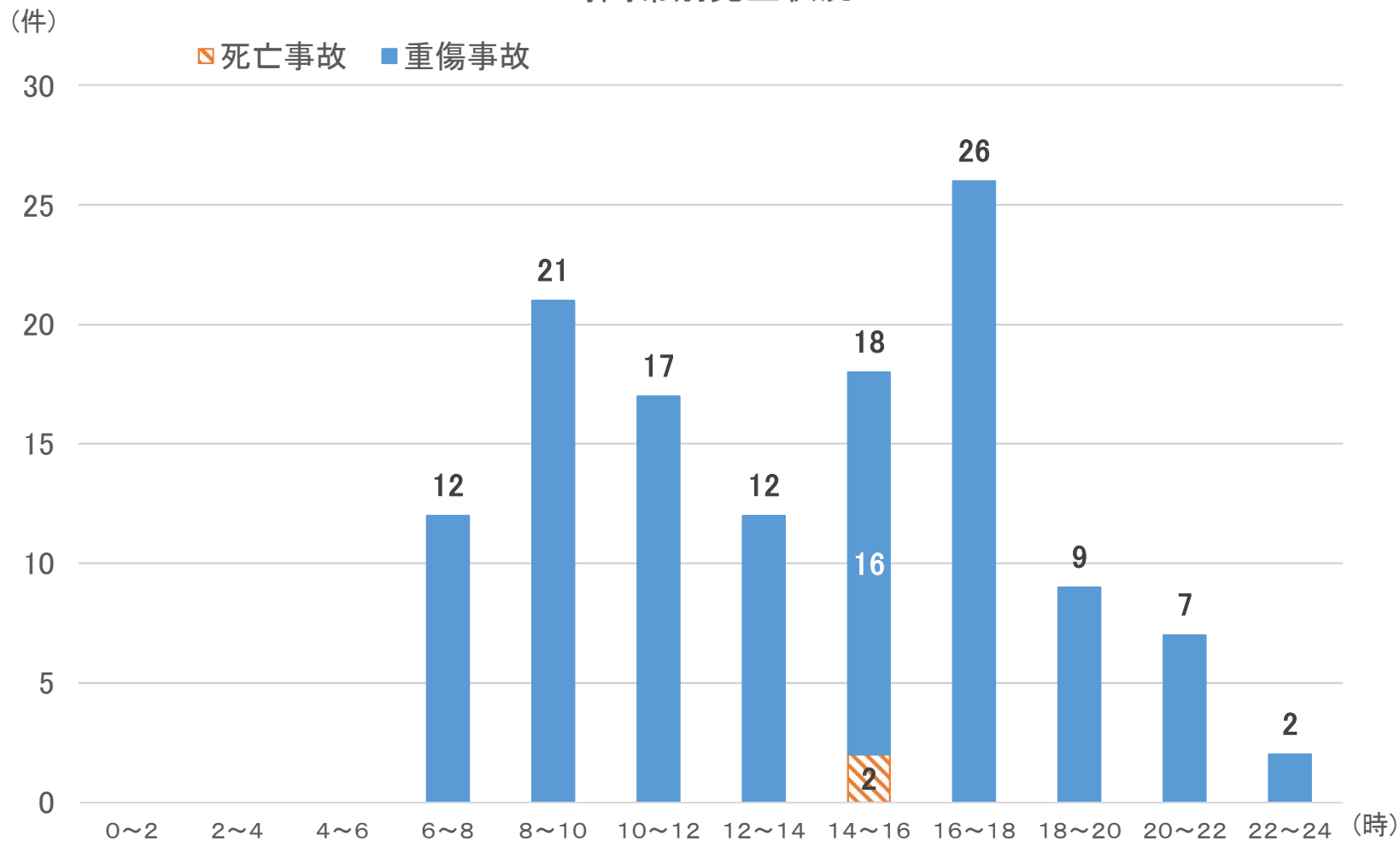
発生件数で見ると前方不注意が最も多く、次いで操作不適が多い。
前方不注意のうち居眠運転が原因の事故は3割以上を占める。
最高速度の発生件数の内、約7割が死亡事故である。



4-1 自転車対車における時間帯別発生状況

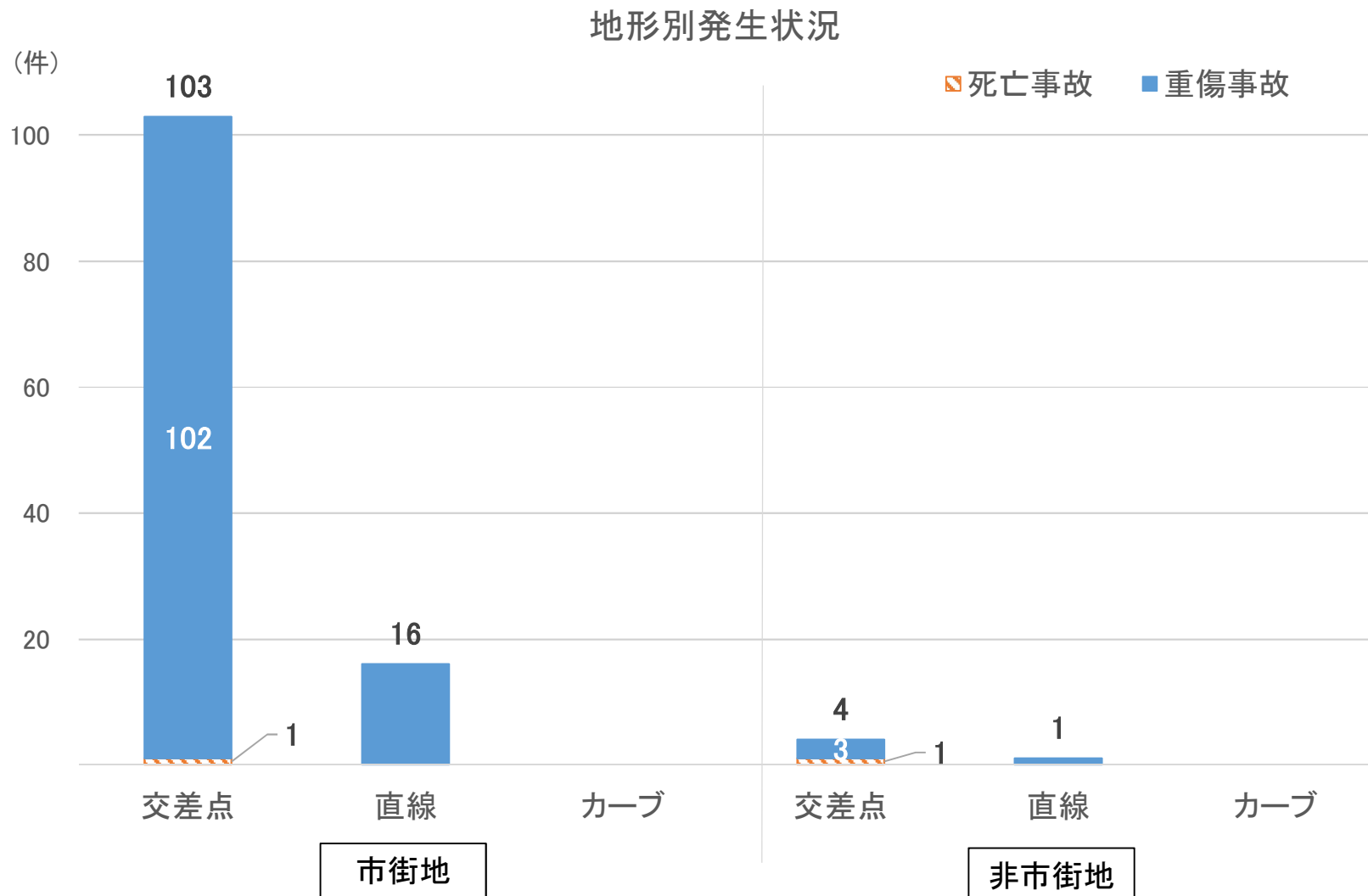
発生件数で見ると、16～18時が最も多く、次いで8～10時が多い。
死亡事故は、全て14～16時に発生している。

時間帯別発生状況



4-2 自転車対車における地形別発生状況

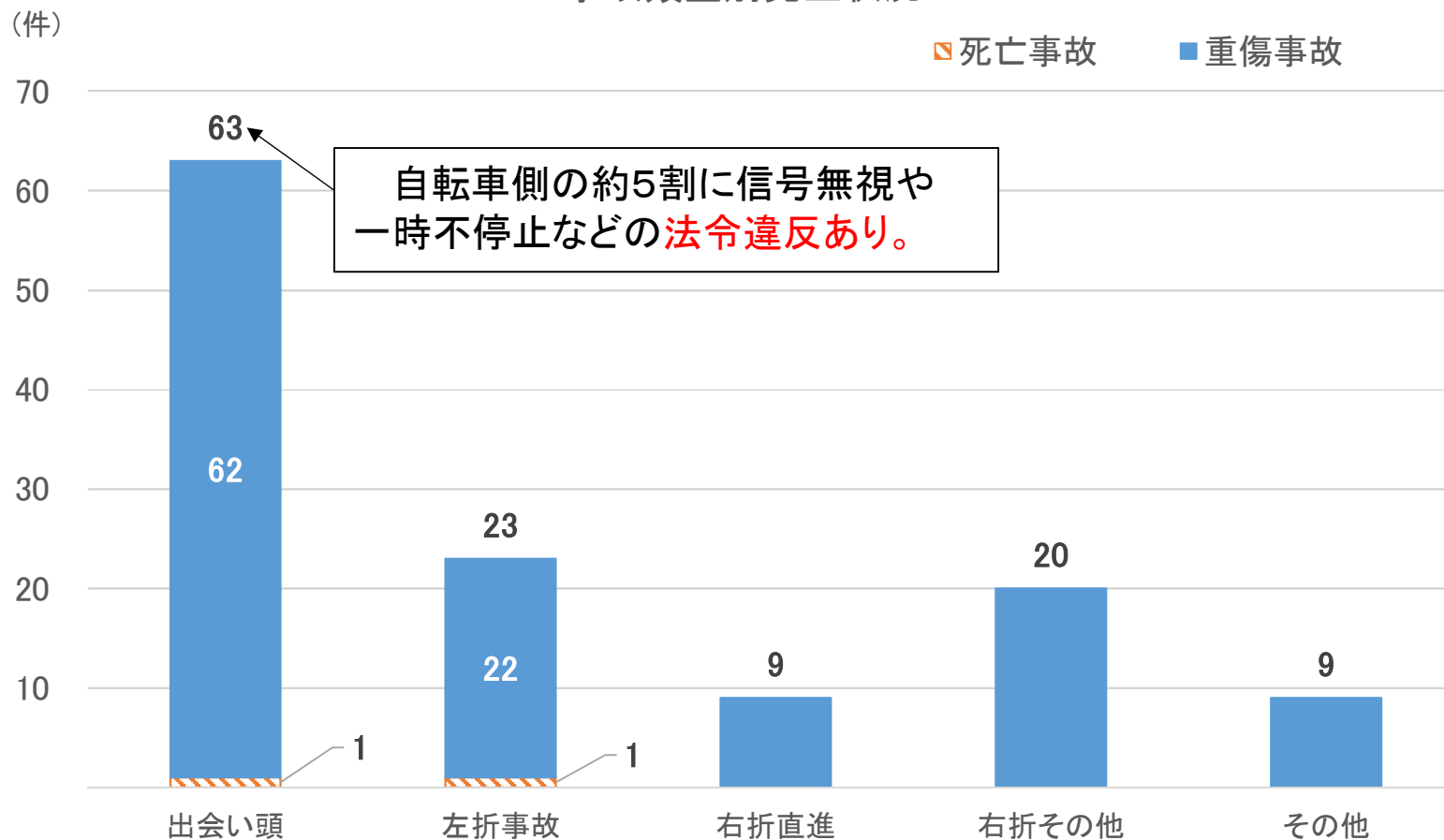
発生件数で見ると、市街地交差点が最も多く、次いで市街地直線が多い。
死亡事故は、市街地と非市街地それぞれの交差点で発生している。



4-3 自転車対車における事故類型別発生状況

発生件数で見ると、出会い頭が最も多く、次いで左折事故が多い。
死亡事故の事故類型は出会い頭と左折事故である。
出会い頭のうち、自転車側の約5割に信号無視や一時不停止などの法令違反あり。

事故類型別発生状況



(注)「左折事故」、「右折その他」とは一方の車両等が、左折、右折時に発生した事故をいう。

4-4 自転車対車における自転車乗用中の年齢層別死傷者数

65歳以上の高齢者が突出して多い。
死者は、16～19歳、65歳以上がそれぞれ1人である。

